



十一月の幼児生活

東京女師附屬幼稚園

ト

部

た

み

十一月の主材

- 冬の仕度（寒さの準備）
 - お正月を待つ遊び
 - 七五三のお祝ひ
 - 開校園記念日
 - 十一月誕生會
 - 飼育動物或は花壇の世話
 - 遠足、戸外保育
 - 十一月の景色
- （町、庭園、田園、天候、季節等）
- 渡米人形送別（特に本年現はれしもの）

曜 週	一	二	三
1	<p>日曜日の話、繪、ホスター作り、旗作り、幼児の樂隊に合はせ行進及び遊戲、折紙切紙等の提灯、旗等つないでお土産とす。</p>	<p>秋季運動會、幼兒の遊戲、 ○だるま送り、 ○リレー ○月夜の兔、キンダアホルカ (小さい汽車、リトルロビン)</p>	<p>自由遊び 運動會の時の新聞、ホスター蒐集、展覽會 それを見て運動會の印象について談話 ついで繪に發表 唱歌(雨がフリマヌ)其他練習 ものまはし、雨の仕度ごっこ 積木、カード遊び</p>
2	<p>自由あそび(同前) 氷川神社—S家庭園 (九時半より午後一時半迄) 園外保育</p>	<p>自由あそび (昨日の木の葉、どんぐり、其他の木の實等にて玩具作り 昨日の話、繪、續いて果物屋ごっことなる。 唱歌、遊戲(練習)</p>	<p>自由遊び (銀杏寺寄宿の庭) 木の葉ひろひ(木の葉遊び) 手色わけ、形わけ、種別わけ 技、繪或は木の葉細工、切紙談話(お日様) 唱歌(夕日)新授 遊戲(夕日、木の葉、おどれ等)</p>
3	<p>自由あそび 七五三祝ひ贈物作り、各兒のをまとめ包装、宛名のしお祝の集り、 (あいさつ、談話、贈物、唱歌、遊ぎ) 牛天神へ参拜(一同)</p>	<p>自由あそび 昨日の話、繪等の發表、寫眞、玩具等(生ひ立ちの思出)陳列 談話(七つの祝或は誕生の子供の赤ちゃんの時の發表) 唱歌、遊戲(練習) (明日のプログラム相談)</p>	<p>自由あそび 花壇の手入れ、小鳥の世話 誕生會(尋一と合同) 挨拶、お祝のことは、おくりもの (お話、綴り方、母其他からきた話) 唱歌、遊戲、樂隊お話あそび</p>
4	<p>自由あそび (日曜生活其他發表、かき上つたもの、繪とき) (汽車作り、電車作り續き集 蒐物かざり 積木の汽車、電氣機關車自動車等、 羽根つき、繩飛び初まる、唱歌、遊ぎ(練習)</p>	<p>自由あそび(製作つゞき) 汽車、自動車、等数を増す その都度問答起る、 幼兒製作を集めてカード、停車場、道路、家、木等を補ひ町(村)をつくる。 銀杏寺(さんなん銀杏の葉ひろひ)グリヤ錦木其他 談話(ロビンソングルウソウ)</p>	<p>自由あそび (昨日の續き) 完成近くなつたので一組をさそひ町見物する、 汽車、電車に關する様々の歌をうたひあそぶ 談話 羽折れ雀 お話遊び(親雀、小雀まつぶ)歌、遊、夕日、雀、其他</p>

六	五	四
<p>自由あそび (同前)</p> <p>(ボールさがし、ボール投げ、籠ボール等)</p> <p>(ものまね) (動作による)</p> <p>談話 ロビンソングルウソウ</p> <p>唱歌 (雨) 其他</p> <p>遊戯 (フインガーダンスおどれ其他)</p>	<p>自由遊び (同前)</p> <p>談話 (變なあひるの子)</p> <p>繪話の内容に關する繪或は繪繪</p> <p>切紙 (あひる)</p> <p>庭園作り (共同製作)</p> <p>麥紙に山池道をかきアヒルを置き、木、人をならべて遊ぶ。</p> <p>唱歌 (雨がフリマス) 其他</p> <p>遊戯 (練習)</p>	<p>自由あそび</p> <p>アメリカの子供さんにあげる繪その裏に説明或は手紙をかく。</p> <p>(きせかへ人形作り、色板、積木、三體つなぎ等)</p> <p>もの廻し、ことばつなぎ</p> <p>唱歌、遊戯 (練習)</p> <p>午後米國答禮人形送別會のため代表幼児日本青年館へ出席</p>
<p>自由あそび</p> <p>七五三祝ひ仕度</p> <p>おくり物作り、(切紙、折紙、繪 (キビカラ、粘土等))</p> <p>お話あそび (麥つぶ) 續き</p> <p>身體検査</p>	<p>自由あそび</p> <p>談話「赤いめんどり」麥つぶ</p> <p>問答しつゝお話遊びに入る</p> <p>七五三の祝ひの仕度</p> <p>贈りもの作り (果物籠)</p> <p>柿、梨、バナナ、栗等を畫用紙にかき切抜いて籠に入れる、ならべて遊ぶ</p> <p>唱、遊、運動 (とびくら等)</p>	<p>落葉ひろひ (つゞき)</p> <p>粘土 (作り) 木の葉の皿</p> <p>粘土板洗ひ、ふきん洗濯</p> <p>砂場の道具あらひ</p> <p>談話 (赤い牝鴉) 麥つぶ</p> <p>繪話 (話の一場面)</p> <p>唱、遊 (夕日其他)</p>
<p>自由遊び</p> <p>汽車、箱庭、砂場、トシネル作り</p> <p>電気機關車、汽車、等の繪</p> <p>切抜等蒐集</p> <p>運動遊戯</p> <p>とびくら、リレー、ボール送り等</p>	<p>自由遊び</p> <p>昨日の博物館行につき</p> <p>談話、切抜等に發表</p> <p>ヒル積木、停車場作り、鐵道省線電車等により、汽車ごっこ、電車ごっこ旅行ごっこ</p> <p>唱歌、汽車其他</p> <p>遊戯、汽車、小さい汽車、其他</p>	<p>鐵道博物館行</p> <p>本校門——吳服橋</p> <p>坂、道路、交通整理</p> <p>川、船、省線、高架線</p> <p>鐵道に關する一切の陳列品</p>
<p>自由遊び</p> <p>(羽根つき、かるた取り、かるた作り、すご六)</p> <p>談話 (松の木)</p> <p>内容を繪に發表す、</p> <p>お話あそび (親雀小雀、麥つぶ、熊のおうち等)</p> <p>遊戯、唱歌、練習會</p>	<p>自由あそび</p> <p>たき火にあたつて遊ぶ (觀察) カード遊び、巾とび、ボール遊び</p> <p>本校々庭——寄宿庭</p> <p>銀杏、樺、榎、紅蓮、苦楢樹、むかご、桐、等採集物を集めて遊ぶ。紙、テープ等による葉の製作</p> <p>談話 (寒くなりました)</p> <p>冒感の用意服裝の話に及ぶかるたとり、かるた作り。</p>	<p>戶外保育</p> <p>雙啞學校——白山神社</p> <p>澤藏司稻荷——傳通院</p> <p>繪 (觀察したもの) 就て)</p> <p>唱歌、夕日、雀、雨等</p>

保育手帳から

十一月三十日（庭で自由遊び中）

亭（六年一ヶ月） 俊次（六年四ヶ月）

晃（六年四ヶ月） 泰（五年九ヶ月）

他の組から聞えてくる雪の歌をきいて

ト「もつと寒くなると雪が降つて來ますね?。」

俊「雪どうして降るか知つてゐる?。」

亭「雨がもつとつめたくなつて雪になるんだよ。」

晃「あゝさうだよ。」

泰「ゆうちやん知つてる〜。」

俊「泰ちやんは?。」

泰「あのね、雨が寒くなるとちりて來る時、もし

ろい附けてくるのよ。」

ト「それでは雨はどうして降つてくるの。」

晃「あのね、湯やへ行くとポタンと冷たいのがあ

ちて來るでせう……。」

亭「ゆげが天へあがつて、かたまつてそれが冷く

なつて雨になるの。」

泰「泰ちやん知つてる〜。」

俊「泰ちやんは」

泰「あのね、お日様が泣いたのよ。」

此の可憐の間答、子供らしい解決をどう扱ひませう。大人の概念を、ことばにしてその儘耳から入れられたそれを子供の知識の様に思つたりする事は考へるべき事と思ひながら、いつもこんな時つくつく考へさせられます。そして失敗をくりかへして居ります。

ト「さつき亭ちやんが湯氣が天へあがつてかたまるといつたけれども、そのゆげのかたまりがあの雲ですね。」（雲を指差して）

俊「白い煙は白い雲になつて、黒い煙は黒い雲になるのね。」

一同「さうだね。さうだね。」

ト「あゝ煙と湯氣……。」

是から先の私の取扱ひが又今考へてもをかしいものですが、とにかく煙は煙、湯氣は湯氣としてその立ちのぼる實際を観察させ各の名稱と結び附ける事を第一として機にのぞみ折にふれていたしました。そして其間に又次の様な問答も出ました。

ト、皆さん今の貞子さんのやうに解らない事があつたら人に聞くのがいいのね。」

泰「ゆうちやんないのよ。」

俊「でも自分で考へる方が偉いでせう。」

* * * * *

幼児の話は毎年入園當初から引續き記録して居りますが、何時の子供も話として自分で發表するものは必ず桃太郎が中心となつて居り、又殆ど一様に初めの間は桃の中から男の子が生れて桃太郎と名づけた」といふ處迄を以て終つて居り、それを繰り返してゐるうちに、漸次幼児の程度の進むにつれ本幹の内容が一段落宛加はり、又一足

飛びに結末のくる時もあります、遂に全體の話が纏るといつた過程も殆ど一致してゐるのか實に面白いと存じます。

なほ幼児に言語發表の練習機會を與へる一方便として、自由遊びの間に、或は談話其他の保育の前後に、幼児の印象深いと思ふ生活の發表をさせる事を全兒に試みて居ります。そのためか保姆の方から話を要求せずとも、幼児が自發的にいろいろの機會に話をなし、又それも最初は二三人なのが第一學期終りには半數程になり、第二學期以後終り迄には殆ど全體に近い子供が自由發表をする様になる事も愉快でございます。

今年四月入園の幼児が初めて昨日の日曜のお話を致しましたのを記してみませう。(四月十六日)

俊子(四年七ヶ月) 昨日ね、上野へ行つたの、お父さんお母さんと、そしてね、あの、歸りに何か食べたの、おすし。

勉(五ヶ年) 昨日ね、鳥が澤山居るから、あんまり狭いからね、あのとつかへたの、見てたの。

正(四年三ヶ月) あのね、池袋へいったの。

昭次郎(四年七ヶ月) あの、お父さんとおかあさんと…僕と、それからあのね、汽車に乗つたの、汽車の中で食べたの、そして歸つたの。

泰郎(四年九ヶ月) ね僕ね、お母様とお兄様と行つたの、どこだつけな、忘れちやつた、あゝ村山、貯水池へ行つたの。

寛(四年十一ヶ月) あのね、昨日ね、遊んだの、そいで歸つたの。

禮子(四年十ヶ月) 昨日ね、あのね、おばあ様と禮子と昨日ね、えーお母様と、坊やと行つたの。

周一(四年八ヶ月) 本讀んだの。

季子(四年二ヶ月) 三越へ行つたの。

文子(四年九ヶ月) 昨日ね、お花見に行つてね、いゝ物食べたの、あすし。

夏生(四年八ヶ月) ね、昨日ね、お母さんと、お父さんと、たかちやんといつたの、お辨當たべたの。

收一(四年五ヶ月) 昨日ね、高尾山へ行つたの、そしてね花をつんだの、そしてね、てつぺん迄行つて、そして遊んで歸つたの。

小學校尋一に於ける綴り方指導も、幼兒期のは等の發表から發達していくその段階を見守つていく時に、眞に妙味があると思つて居ります。なほ此の當時の幼兒の話の中から二三摘記致しませう。

正(四年二ヶ月)(四月十四日)

(一) あつちから桃、赤い桃こつちへ來い、なくなるの、ね、毎日々々言つたの。

同人(四月十七日)

(二) 鬼が山で遊んで居たの、虎が居たの、「鬼を食べたいね。鬼が逃げて木に登つたの、下から虎が見てたら、鬼がピョンと下りたら、バクつて食

べたの。

同人（四月十九日）

(三) 猿がね、鼠の家があつて鼠が入つてゐたの、「何か食べたいな。」と思つて人間の家へいつたの、何かたべて家へ歸つて外で遊んで又家へかへつたの、そのうちに人間の家では「オヤ何か食べたな。」つてそいつたの。

同人（四月二十四日）

(四) 或日ね、自動車走つて来てお家の前に止つたの、「オヤ誰かな。」と思つて良く見ると、悪漢がのつてゐたの、今度は悪漢ぢやあない人間の自動車で追ひかけたの、どん／＼いつたの、そしてたら何處へ其の悪漢が行つたかわかない、ね、づつと坂を行つたの、此度は川の處へ來たの、そしてたら橋がなくて向ふへいかなないの、そいで困つてゐると、兩方の自動車がボンとぶつかつて川の中に落ちてしまつたの。

同人（五月十八日）

(一〇) あのね、猫が金魚をたべたの、そいで金魚屋のお醫者様が見たけども、猫がおなかを食べちやつたから分らないでせう、ね、そしてね取られないやうにお家の中へ入れて鍵の付いてゐるふたをして、猫にたべられない様にするの。「金魚がたべられない。」といつて猫も泣いちやつたの。

此の話と前の話との間に六つの面白い發表をしてゐますが、大抵幼稚園及び家庭できいた話の再現に自分の想像の混つたものと思はれるもの。是は家庭で猫に金魚をとられた事實があつた翌日の話でした。

次の話では幼児の數生活——量の觀念といつた方面がおもはれて面白いと存じました。

同人（五月二十九日）

あのね、オルガンをね、小さいオルガンと大きいオルガンとつないであつたの。ね、大きいのは

せいが高くて屋根迄あつて、小さいのは僕達位なの。大きい方のオルガンは多勢でして、小さいのは百人位でやつて喧嘩しておまはりさんが来てそ

いでね、お巡りさんも喧嘩したのそいでおしまひ。

次の子供は入園以來かく繪は必ず自動車で、他のものをかいても自動車を加へる様です。次のは初から三回目のもの。

周一(四年八ヶ月) 四月廿四日、

或處に三越があつたの、三越の赤い自動車にのつたの、犬が来てね屋根へのつたら、猿が来てのつたの、此度兵隊さんが乗つちやつたの、馬がのつたの、そうしたらみんなおつこつちやつて三人轢かれたの、今度は兎と罐詰がのつたの。おしまひ。

同人(五月二日)

ね、或とこにね、自轉車に雉子が乗つたの、そしてね、お猿が出てきたの、雉子のおなかに入つ

たの、自動車がこはれて脱線して、雉子とお猿が縋りつたの、貨物汽車が停車場へ來たの、山の方へ登つていつておつこつちやつたの。

草花や垣根もなしに台所

水 巴

留守すれば柘榴の色の日數かな

圓 女